

9 生涯学習

地域とともに子どもたちの自立を支える生涯学習

【方向性】

現代社会は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」と言われ、生涯にわたって学び続けることが不可欠である。生涯にわたって学び続けるために必要な「生きる力」を育むという視点から、学校教育は、生涯学習の基礎づくりの場として捉えていくことが大切である。

また、生涯学習の充実を図り、子どもたちが心豊かにたくましく成長していくために、学校と地域の連携・協働による活動が推進されている。本県では地域連携教員が各学校に配置され、校内組織の整備が進められている。今後、「社会に開かれた教育課程」を実現していくために、地域の様々な団体・関係機関等との連携・協働を構築していくための体制づくりが求められる。

【課題】

(1) 生涯学習社会を担う子どもたちの育成

生涯にわたって学び続けていくために、学校教育では、各教科等での基礎・基本の定着を図り、主体的に課題を解決する力を習得させていくことが求められる。

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、理解の質を高め、これからの時代に求められる資質・能力を育てていくことが大切である。

また、学習の成果を生かしたり、学習への関心を高めたりしていくために、ボランティア活動や様々な体験活動を積極的に取り入れていくことが望まれる。

(2) 「開かれた学校」から「地域とともにある学校」への転換

学校が抱える様々な課題の解決や、子どもたちの豊かな成長のために、これまでの「開かれた学校」から一歩進めて、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」への転換が求められている。

教職員と地域住民が互いに対話する「熟議」等、子どもたちがどんな課題を抱えているのかを地域と学校が共有し、関係者が当事者意識をもてるような場づくりを工夫していくことが大切である。

(3) 「地域学校協働活動」に向けた取組

各地で地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく「地域学校協働活動」の推進が図られている。ここでは、地域と学校はパートナーとして、共に子どもを育て、共に地域を創るという理念に立ち、これまでの学校「支援」から「連携・協働」に発展させていくことが求められている。

学校と地域の「連携・協働」の体制整備のためには、コーディネート機能の強化が重要である。そのためにコーディネーターの配置を進め、地域住民や地域連携教員等との連絡調整を行いながら、より幅広い地域住民が参画し、多様な活動を展開していけるようにすることが大切である。

(4) 校内推進体制の充実

生涯学習の推進は学校経営・学校運営とも深く関わり、職務内容も多岐にわたることから、担当者の適正配置や校務分掌への適切な位置付けが必要である。

社会教育主事有資格教員がいる場合は、地域連携教員に指名して専門的な知識を有効に活用したり、地域連携教員の負担軽減を図り、円滑な活動が展開できるよう地域連携チームを組織したりして、効果的・効率的に連携活動に取り組んでいくことが大切である。

【参考資料】

- | | | |
|---|--------|---------|
| ・地域学校協働活動 地域と学校でつくる学びの未来 | H30.3 | 文科省 |
| ・小学校学習指導要領解説総則編 中学校学習指導要領解説総則編 | H29.7 | 文科省 |
| ・地域とともにある学校づくり～学校支援ボランティアハンドブック～ | H28.3 | ふれあい学習課 |
| ・栃木県生涯学習推進計画五期計画「とちぎ輝き『あい』育みプラン」 | H28.2 | 県生涯推進本部 |
| ・新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について (答申) | H27.12 | 中教審 |